

蜂ノ巣城

2002年中津江村より

岡部耕大
書き下ろし

その砦は黒澤明監督の映画「蜘蛛ノ巣城」に倣い
「蜂ノ巣城」と擲揄された。

Story

2002年。郷土史作家西浦耕介が大分県中津江村を訪れた。2002・サッカーでカメルーン共和国チームのベースキャンプ地となり話題になった中津江村である。同国が中津江村をキャンプ地にした理由は「静かな環境で、よい芝生があるから」であった。山里ならではの素朴なアピールが、誘致成功の決め手となったのである。しかし、カメルーンの本入りは遅れ、中津江村の人々を困惑させた。全村をあげ「国際交流」の準備を進めてきた中津江村に、もはや友情に応える時間はありそうにもなかった。その遅れた5日間、中津江村とカメルーンの様子は毎日報道され、中津江村は日本一有名な村となった。作家西浦耕介は「未知との遭遇をした中津江村の人々」を書くべく中津江村を尋ねたのである。プロ野球の選手に憧れている村役場総務課長の古賀勇。マスコミの前ではピエロに徹する村長の坂上徹。ボランティアの沢田恭子。

2001年から2002年。殺伐たるニュースが全世界を暗濁とさせている時代。人口1360人のニッポン中津江村の人々の動きが微笑ましいニュースとして全世界へ流れたのである。耕介の取材は順調であった。个性的な中津江村の人々とおおらかなカメルーンとの微笑ましいトラブル。しかし、西浦耕介は生粋の中津江村っ子の老人古賀義介を知ることになる。「えっ、あの湖が蜂ノ巣城の砦だったんですか」。60年安保の頃「暴には暴・法には法」をスローガンにダム反対運動を起こした「蜂ノ巣城紛争」は中津江村のすぐ隣村であった。西浦耕介に幼き日が蘇る。中津江村のカメルーン騒動が華やかになればなるほど「蜂ノ巣城紛争」の記憶が耕介に重くのし掛かっていく。賑やかに生きる素朴な村の過去…。この物語は「人間喪失の時代」といわれる時代に、「人間」と「人間らしさ」を描く「がんばろう一柏木家の人々」に続く意欲作の第二弾です。

Staff

美術/寺岡崇 照明/西尾憲一 音響/斉藤英士 振付/NOMBO 写真/山本悟正 宣伝美術/岡部萌子
舞台監督/早津信久 企画・制作/岡部企画 制作協力/山村晋平・劇団ギルド

Cast (50音順)



井徳太郎 いわいのふ健 岩淵憲昭 大塚恵子 小澤俊明 川久保壮一 川野妙子 小池雄介 小林達雄
瀬川夏未 茅根直美 永島広美 服部博行 堀江菜子 増山浩一 松尾あぐり 谷代克明

	5/12(水)	13(木)	14(金)	15(土)	16(日)
14:00				●	●
18:30	●	●	●		

4/5日発売開始 全席指定

- 一般 4,500円
- ペアチケット 8,400円
(要予約・岡部企画扱い)
- グリーンチケット 2,500円
(18歳以下・岡部企画扱い)

お問い合わせ・前売り

- 岡部企画 044-933-9754
- チケットぴあ 0570-02-9988
- イープラス eee.eplus.co.jp
(パソコン・ケータイ)
- キノチケットカウンター 新宿東口紀伊國屋書店5F
(店頭販売のみ 10:00~18:30)

2004年5/12(水)▶16(日)

新宿東口 紀伊國屋ホール 紀伊國屋書店 新宿本店 4階

■「新宿」駅東口下車 徒歩5分 ■地下鉄丸の内線、都営新宿線「新宿三丁目」駅下車 B7・B8出口
TEL 03-3354-0141

■企画 制作/岡部企画

TEL 044-933-9754 〒214-0031 神奈川県川崎市多摩区東生田1-12-7
URL http://www.214c.co.jp/

